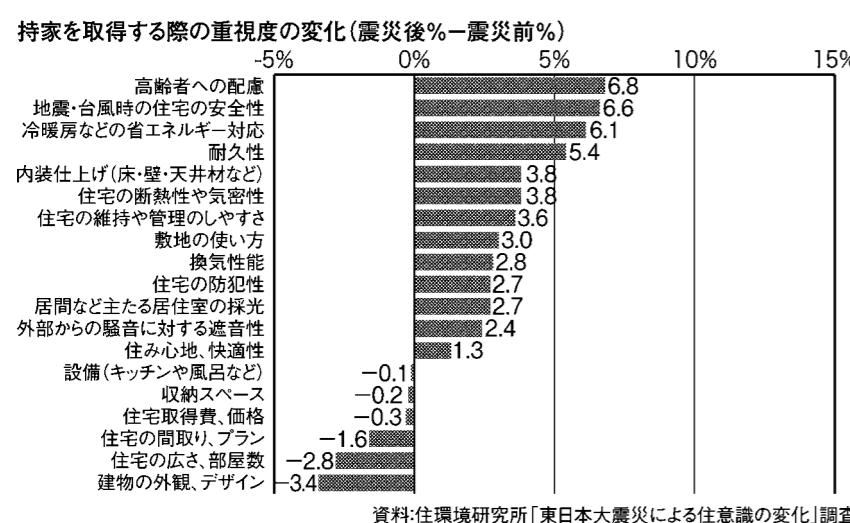


# 求められる災害への強さ



## 蓄電池

住宅メーカー各社は蓄電池付き住宅の投入を前倒して消費者のニーズに応えている。積水ハウスは太陽光発電池、鉛蓄電池の三つを備えた自立型省エネ住宅「グリーンファーストハイブリッド」を8月に発売した。日常料電池の電力を使って買電池の電力を販売している。積水ハウスは太陽光発電池や燃電池を搭載されるエリーパワー・蓄電池

電を減らし、一般的な住宅に比べ光熱費を年間26万円削減する。非常に多くの電池などからの電力供給に自動で切り替わる。採用した鉛蓄電池は容量が890アマペルと大きく、満充電の状態で冷蔵庫を目標にしているが、消費者の反応は良くなっている。11月からは同商品にHEMSも標準化する方針で、さらに環境対応を強化する。

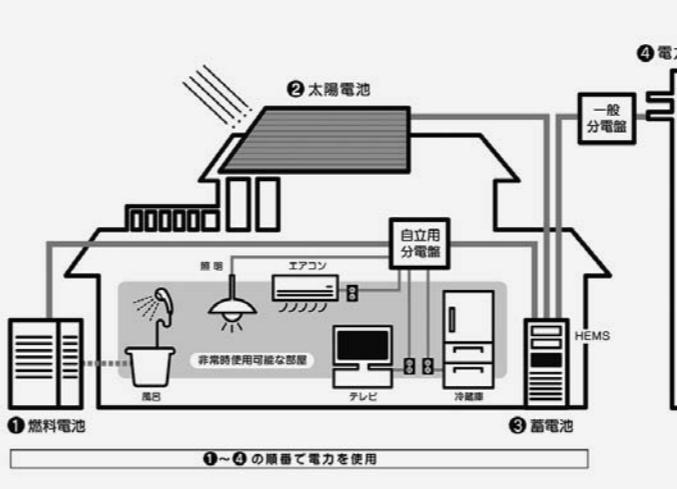
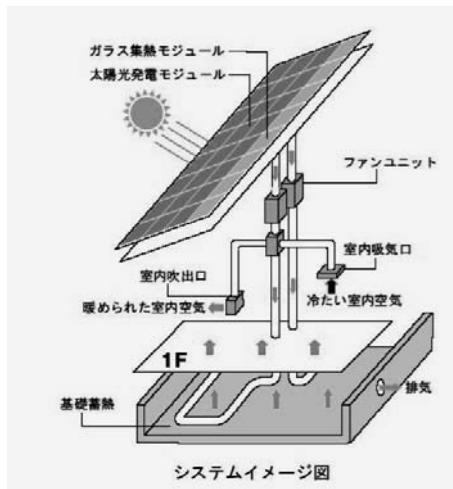
大和ハウス工業は太陽光発電と家庭用リチウムHEMSを太陽HEM

## 意識変化

東日本大震災以降、消費者の住まい選びの重視ポイントは大きく変化した。耐震性はもちろん省エネ性能、停電に強い太陽光発電や蓄電池など、機能面を重視する傾向が強まつた。また家族や地域とのつながりを求める人も増えている。こうした要望に対して、住宅メーカー各社は蓄電池付き住宅や住宅エネルギー管理システム(HEMS)を相次いで投入。消費者の期待に応えている。



積水ハウスの自立型省エネ住宅「グリーンファーストハイブリッド」の外観と解説図

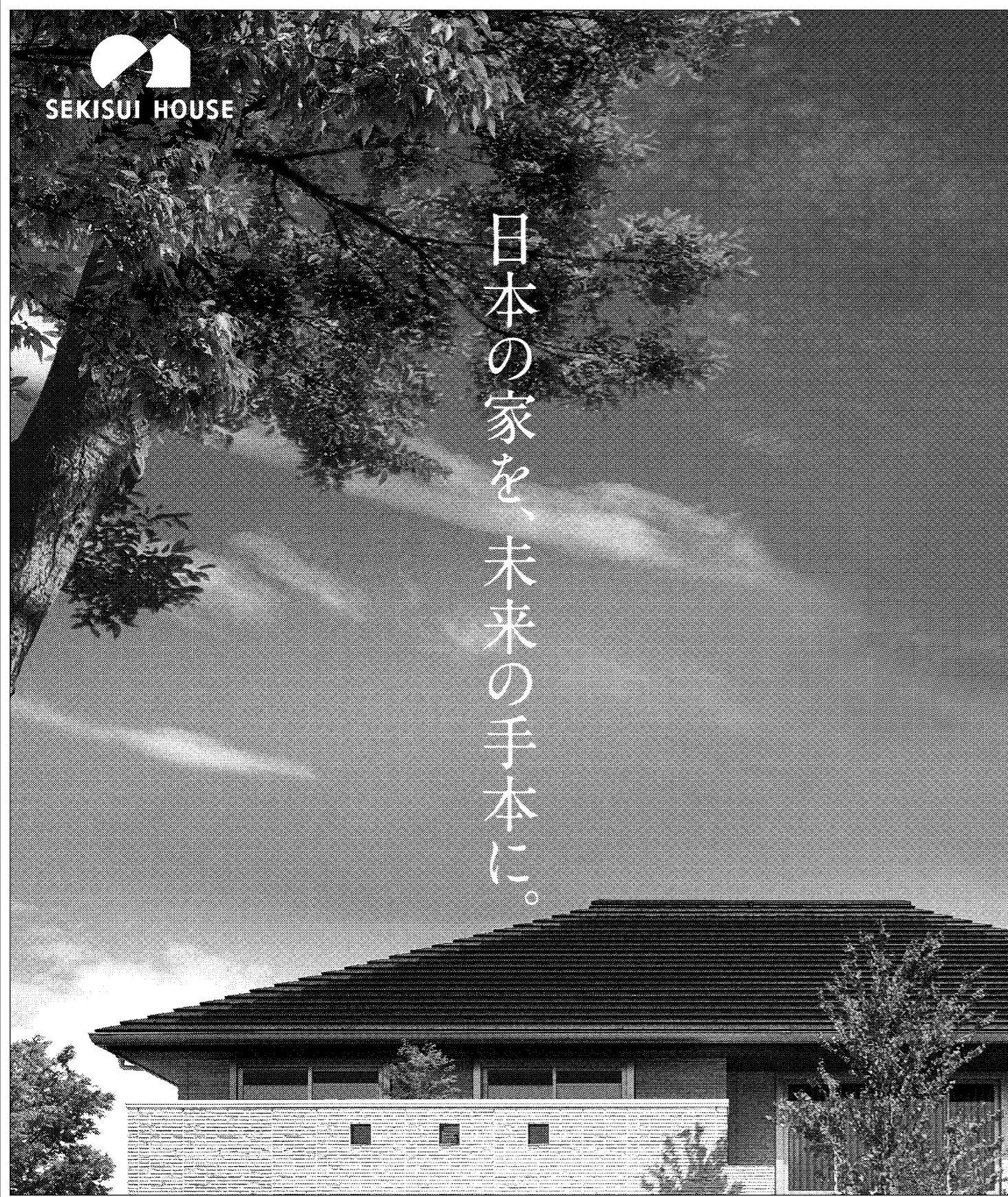


で「地震・台風時の安全性」を挙げた人は震災前から6.6%上昇し87%に、「太陽光発電などの省エネ」「エコキュート」「節水」に対応も同様に81%となつた。一方、住宅のデザイン性や価値を重視する傾向が顕著に表れている。住宅に採用したい設備では「太陽光発電」が47%と最も高かつた。停電時も電力を蓄電することで電力の供給を強化する。太陽光発電採用者の震災後の意識と行動への関心は「かなり関心」が34%、「ある程度の絆を重視する消費者の姿勢だ。住宅取得時の重視ポイントに、高齢者へ

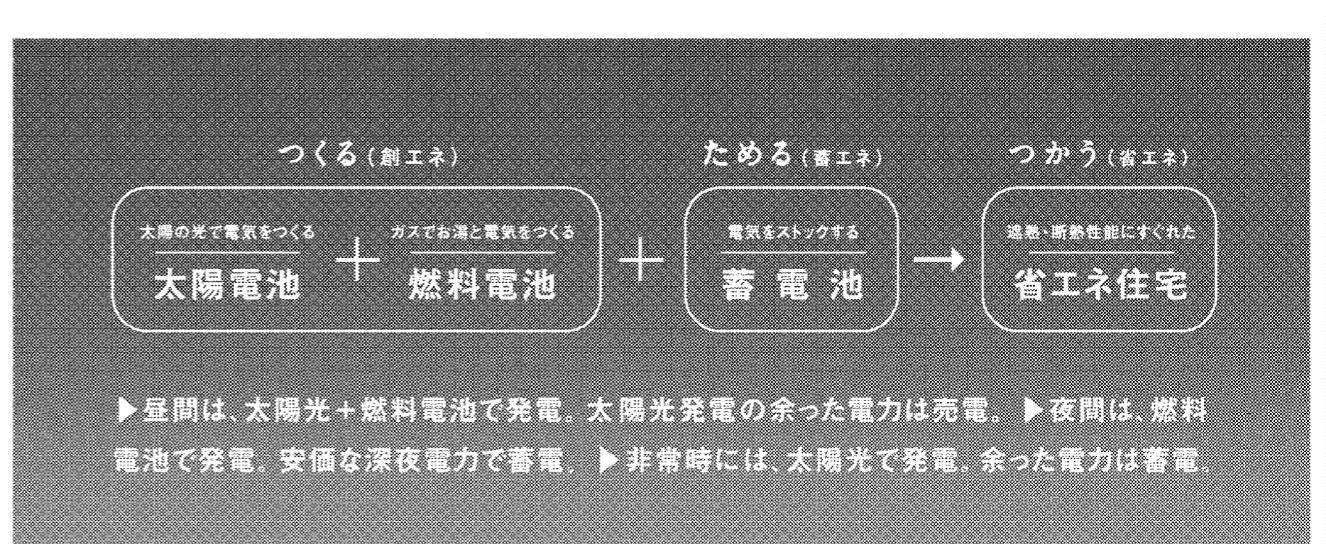
も評価につながっている。電力会社が上位を占める。機器が上位を占める。同じく住環境研究所が実施した「太陽光発電採用者の震災後の意識と行動」では、電池への関心は「かなり関心」が34%、「ある程度の絆を重視する消費者の姿勢だ。住宅取得時の重視ポイントに、高齢者へ

も評価につながっている。電力会社が上位を占める。機器が上位を占める。同じく住環境研究所が実施した「太陽光発電採用者の震災後の意識と行動」では、電池への関心は「かなり関心」が34%、「ある程度の絆を重視する消費者の姿勢だ。住宅取得時の重視ポイントに、高齢者へ

## 住宅産業



for the next stage  
人に、街に、環境に。積水ハウス



日々の快適と、環境の未来と、暮らしのエネルギーの問題に、先進技術のすべてを注いで答えます。日常生活は、節電と快適な暮らしを両立し、非常時にも、自立した生活を可能にする家づくり。積水ハウスから、新しい提案です。エネルギーに「3つの備え」のある家。燃料電池、太陽電池、蓄電池の、3つの電池を備えた住宅、「グリーンファーストハイブリッド」を、

世界に先駆けて実現しました。家庭内で暮らしのエネルギーを、効率よく「つくる、ためる、つかう」ための理想的なシステムを構築。最高レベルの「快適性、経済性、環境配慮」を約束する「グリーンファースト」が、いま、未来へ向けて進化します。

GreenFirst HYBRID

3つの電池を備えた「グリーンファーストハイブリッド」。世界に先駆けて、積水ハウスから。

グリーンファースト 検索